

■事務室の方へ 恐れ入りますが、分会長さんへお渡しください。

<b>長野高教組FAXニュース</b>	増刷りの上、職場のみなさんに配布してください。
〒380-8790 長野市県町593 TEL 026-234-2216 FAX 026-234-2219 メール <a href="mailto:naganokokyoso@educas.jp">naganokokyoso@educas.jp</a> HP <a href="http://naganokokyoso.com/">http://naganokokyoso.com/</a> FAX ニュースは、HPからもダウンロードできます	2020年9月15日(火) No. 370 (20-08)

## 新高校入試さらに1年延期と 高校再編・整備計画一次分を決定

9月14日の県教委定例会で、新高校入試の1年先送りと、高校再編の一次分が決定されました。

高校入試については、昨年9月に新制度案を示しましたが、多くの疑問が寄せられ、練り直した案を本年9月に示すとしていました。しかし、コロナ禍で検討が予定通りすすまず、さらに1年延期するとなりました。示された案では導入は2025年春(現在の小5年生)からとなります。

高校再編については、6月~7月に対象となった地域での住民説明会で、多くの慎重・反対意見が寄せられていたにもかかわらず、「概ね了解いただいた」としてほぼ変更なしで決定を強行しました。

定例会終了後、両教組合同で書記長の談話を発表し、抗議しました。

### 「高校改革 再編・整備計画【一次】」の決定に関わる書記長談話

本日(9月14日)、総合教育会議と教育委員会定例会が行われ「再編・整備計画【一次】」が決定されました。両教組は9月10日、一次分について拙速な決定をせず引き続き住民合意を求めること、住民説明会で出された少人数学級編制を求める声に応え「再編基準」を見直すことなどをもとめる要請書を連名で提出しましたが、その声に耳を傾けることなく強行したことに強く抗議します。

「高校改革 再編・整備計画【一次】(案)」に関わる地域住民説明会は、対象になった4地区で計16回、739人の参加で開催されましたが、コロナ禍の中で、参加人数も説明や議論の時間も限られた実施となり、小中学生・高校生などの参加はほとんどありませんでした。提案された内容への期待も語られましたが、疑問・課題も多く出されました。しかし疑問に対する県教委の回答は同じ説明を繰り返すことに終始しました。住民説明会の状況について総合教育会議で担当からは「しっかりと説明し、母校がなくなり寂しい気持ちだという意見も何人かあったが、概ね了解をもらった」と事実と相違する報告がありました。本日の教育委員会の結論は、この誤った認識による報告に基づいたものであり、総合教育会議で語られた「地域の理解の重要性」に反するものです。

旧第1通学区では「生徒が減っているから学校を減らすという大前提であるのはおかしい」「教育は損得勘定ではなく、説明会の意見を取り入れて再検討して欲しい」、旧第9通学区では「多部制単位制を望む声は地域にあるが、提案はその期待に応えるものではない」、旧第8通学区からは、総合学科・総合技術高校について校名を示さず設置することだけ先に決める手法について「議論が深まらず、学校名と一体的に議論すべき」との意見や、通学での困難や地域の産業構造を軽視した提案についての強い異論が出されています。また、すべての地域から、コロナ禍にも対応できる少人数学級編制などの必要性が語られ、今後の高校再編にも生かしていくべきだという意見が強く出されています。

コロナ禍の中でクローズアップされた少人数学級については、全国知事会の文教環境常任委員会委員長の阿部長野県知事は「少人数学級の教育効果はかなりある」と語っており、国の教育再生実行会議でも複数の委員が「感染症拡大防止の観点から少人数化を推進すべき」と発言しています。後期中等教育も含めた今後の長野県教育のあり方を根本的に議論することが重要です。

私たちは、県教育委員会が40人学級を前提にした「実施方針」にもとづいた「再編・整備計画【一次】」を決定したことに抗議し、改革の柱として少人数学級の拡大を求めるとともに、引き続き地域合意の「高校改革」とするよう運動をすすめてゆきます。